

## 三位一体の主日

2012.6.3

マタイ 28・16-20

先週の聖霊降臨の祭日をもって、教会の一年の典礼暦の最も大切な中心的祭りの期間が終わりました。教会の典礼暦によって定められているこの祭りの期間に、私たちがミサに参加して祝って来たことは、主イエス・キリストの受難を思い起こしその復活を祝う過ぎ越しの聖なる三日間と復活祭、主の昇天と聖霊降臨の祭日でした。この祭りの期間に祝われるミサに参加して、私たちはその中で朗読された聖書が告げていたことを、信じて受け入れていることをあらためて確認し、そのような信仰に招き入れられたことに感謝して、教会の感謝の祭儀であるミサをともにささげて来たのです。ミサは感謝の祭儀とも言われますが、私たちはミサに参加することによって、何に対して、誰に向って感謝をささげているのでしょうか。主イエス・キリストの十字架の死と復活、復活された主の昇天と聖霊降臨によってもたらされた神の救いのみわざに感謝し、私たちをそのような大いなる恵みに与る者たちとしてくださった父と子と聖霊なる神に賛美と感謝をささげているのです。これが私たちの信仰です。ミサはこのような信仰に生きる者たちとされた私たちの三位の神への賛美と感謝の祭りなのです。今日の三位一体の主日にささげられるミサは、あらためてそのような神への賛美と感謝に私たちを招いているのです。

今日三位一体の主日に、私たちはマタイ福音書の最後に記されている主のみことばを聴きました。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、全ての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことを全て守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。」ここに響くみことばは、天に昇って父なる神の右の座に着かれた私たちの主イエス・キリストのみことばです。十字架に架けられて死んだイエスは復活され、今や父なる神のみもとにあって、父なる神によって、天と地の一切の権能を授けられているのです。私たちが信じている主イエス・キリストはこのようなお方です。私たちがその中に招き入れられ、そこでカトリック信者となる恵みを受けた教会は、このようなイエス・キリストのみことばによってこの地上に生み出されたのです。マタイ福音書の終わりに記されているこのみことばは、福音書の結びのことばに過ぎないのでありません。天に昇って父なる神の右の座に着かれ、天と地の一切の権能を父なる神によって委ねられている神の子、私たちの主イエス・キリストの、天地を越えて世の終わりまで教会の上に響き続

けるみことばなのです。

「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる。」というみことばは、この時代に生きる私たちが、それを自分たちに向けられている主イエス・キリストのみことばとして受け止める以前に、復活されて父なる神の右の座に着かれたイエス・キリストが弟子たちに残されたみことばです。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」というこのみことばを、弟子たちがそのとおりに受け止めることが出来たのは、父なる神のみもとにあつて、天と地の一切の権能を授けられたイエス・キリストが、父なる神のみもとから約束しておられた聖霊を弟子たちの上に遣わしてくださったからです。弟子たちは聖霊降臨の恵み与かることによって、父なる神のみもとに行かれたイエス・キリストが、自分たちとともにいてくださり、イエス・キリストの弟子たちとしてイエス・キリストから託された、自分たちの宣教の使命を導いてくださることを知ったのです。このようにして、天の父とともにおられるイエス・キリストは、世の終わりまでいつも自分たちとともにいてくださることを確信すること出来たのです。

私たちが先週の日曜日に祝った聖霊降臨は、弟子たちが経験したあの最初の聖霊降臨の日の出来事に過ぎないのでありません。聖霊降臨は、父なる神のみもとに行かれたイエス・キリストの「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる。」という約束の、この地上における実現の姿なのです。父なる神の右の座に着いて、天と地の一切の権能を父なる神から授けられたイエス・キリストは弟子たちの上に聖霊を送られることによって、弟子たちの宣教を受け入れた者たちの教会の中に、世の終わりまでいつもともにいてくださるので、これが、私たちが受け入れた教会の信仰であり、私たちの教会の自己理解なのです。教会の中に注がれている聖霊によって、教会は父なる神のみもとにおられるイエス・キリストと結ばれており、イエスがその右の座に着いておられる父なる神のもとにあるのです。

私たちがカトリック信者となることが出来、このような信仰を自分たちのものとする事が出来たのは、私たちが教会において、父と子と聖霊のみ名によって洗礼の恵みを受けたからです。私たちが受けた洗礼は、教会の秘跡の儀式です。その洗礼の秘跡によって、私たちは聖霊の恵みを受け、その恵み包まれて、あの最初の弟子たちのように、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるイエスを信じるイエスの弟子たちとなったのです。聖霊の働きそのものである、父と子と聖霊のみ名による洗礼の秘跡の恵みに与って、私たちは、父なる神がこの世界に遣わしてくださった神の子イエス・キリストの十字架の死と復活によってこの世界もたらされた神の救いの恵みにあずかる者たちとなったのです。

教会の一年の典礼暦の頂点としてのこの祭りの期間に、私たちがミサに参加して祝って来たことは、父と子と聖霊なる神が私たちのために成し遂げてくださった、恵みの救いのみわざです。

父はその独り子を世にお与えになるほど世を愛されたのです。父の独り子であるイエス・キリストは、私たちのために仕える者となられて、私たちのためにそのいのちを十字架の上に与え尽くしてくださったのです。聖霊は父なる神とその右の座に着かれたイエス・キリストのもとから教会の上に注がれ、聖霊の導きのもとにある教会の宣教を通して、この地上の世界の過酷な現実にもかかわらず、その中に生きる私たちをイエス・キリストの十字架の死と復活を通してこの世界に示されている神の愛を信じる者たちとしてくださったのです。この信仰によって、私たちはこの過酷な世界の現実の中であって、父と子と聖霊なる三位の神によって救われているのです。何故なら、この信仰によって、私たちは、私たちがその中に生きるこの世界の現実だけがこの世界の全てではないことを知ったからです。

もう一度、今日の福音の中に響く私たちの主イエスの力強いみことばに耳を傾けたいと思います。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊のみ名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことを全て守るようになさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。」このみことばの中に招き入れられていることを感謝し、このみことばのもとにとどまり続ける恵みを願って今日のミサをともにささげ、祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高